

東研サ一毛×日進精機 共創

自動車部品の加工を手がける中堅・中小企業が、協力して新たな価値創造に挑んでいる。熱処理・表面処理加工の東研サーモテック（大阪府寝屋川市）と、熱力シメ技術を持つ日進精機（愛知県刈谷市）は、互いの技術や知見を掛け合わせ、加工工程の統合や新たな熱処理技術の開発を進めている。両社は共創の成果を脱炭素や事業領域の拡大につなげていく。（大阪・新庄悠）

東研サーモテックと象を電気で熱し、圧力日進精機の出会いは、をかけてつづす（かし「ジャパンモビリティ」める）加工。熱力シメシヨー（JMS）20を行々と焼きが入り硬25」のリバースピッチ。日進精機はボディ、ため、後工程で焼き戻し側に取り付けドアをしを行い靱性（じんせい）固定する部品（ドラス）を付与する。

「トライカー」の加工に、日進精機の熱力シメを使う熱力シメ技術の新しいについて、東研サーモテックの川崎隆司社長は「熱処理を専業とした。熱力シメは加工対は」熱処理を専業とした。

加工工程統合や新熱処理技術

ている当社から見ると、冷却工程がないののに素晴らしい焼き入れ組織ができています」と驚きを見せる。温度変化などを調査・解析した結果、温度上昇後、急速に冷却されていることが分かったという。

この熱力シメのメカニズムを用いれば「(熱処理に必要な)加熱、冷却、洗浄の各工程が不要となり、クリーンなモノづくり環境が作れる。燃料やエネルギーが大幅に削減

両社の技術の強みや今後の展開領域

	強み	展開領域
日進精機 熱カシメの新展開	<ul style="list-style-type: none"> ・異素材同士の締結が可能 ・易解体性があり、各部品をリサイクルできる ・カーボンニュートラル 	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティ（スポット溶接） ・建築・建機 ・航空・宇宙・防衛 ・フィジカルAI（強固定）
東研サーモテック エコ熱処理	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラル ・クリーンな作業環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・超低温（加圧熱処理） ・新素材（非晶質化） ・航空・宇宙・医療

※両社の発表資料を基に作成

「はい、川喜社長（川喜社長）は期待する。一方、日進機は東研サが安くなり、何より環境にも良い」と話す。工程を統合できれば、年間228トンの二酸化

モテックの炭素（ CO_2 ）を削減
処理に関するできる試算だ。

る知見を活用し、熱力シメと焼き戻しを同時にを行う研究を進める。営業部技術営業係の山下雄也係長は「焼き戻しで使う時間を稼働している戻しをなくすのが追い風になりそう」と意気込む。

だ。

両社は熱力シメと焼き戻しを同時に行う新工法を共同で開発し、